

お知らせ

平成11年12月24日
海洋科学技術センター
宇宙開発事業団

「H-IIロケット8号機」の第1段ロケットの再調査（2次調査）について

海洋科学技術センター（理事長 平野拓也）及び宇宙開発事業団（理事長 内田勇夫）は、本年11月15日夕に小笠原諸島の北西約380 km、水深約3,000 mの海域に落下した「H-IIロケット8号機」の機体部分および第1段ロケットの2次調査を、12月20日（月）から実施しています。

調査開始から5日目の本日10時37分、小笠原諸島の北西約380 km（[図1](#)：北緯29度21分、東経139度30分）、水深2,913 mの海域にて「ディープ・トウ」に装備されているTVカメラにより、第1段ロケットの液体酸素メインバルブから主燃焼室への配管（[図2](#)）と細い配管の2点（[写真](#)）を発見し、15時50分には同海域でメインエンジン部を発見致しました。

今回の3点の発見場所は、一昨日（22日）の配管の一部が見つかった場所から、北東に約45 mの位置と推定されます。

尚、メインエンジン部の海底映像については、準備でき次第、写真（電子画像）を当センターホームページにて発表させていただきます。

[メインエンジン部写真](#)

問い合わせ先：
海洋科学技術センター
総務部普及・広報課 他谷たや、池川、木村
TEL 0468-67-3806
宇宙開発事業団 広報室 福室、高橋

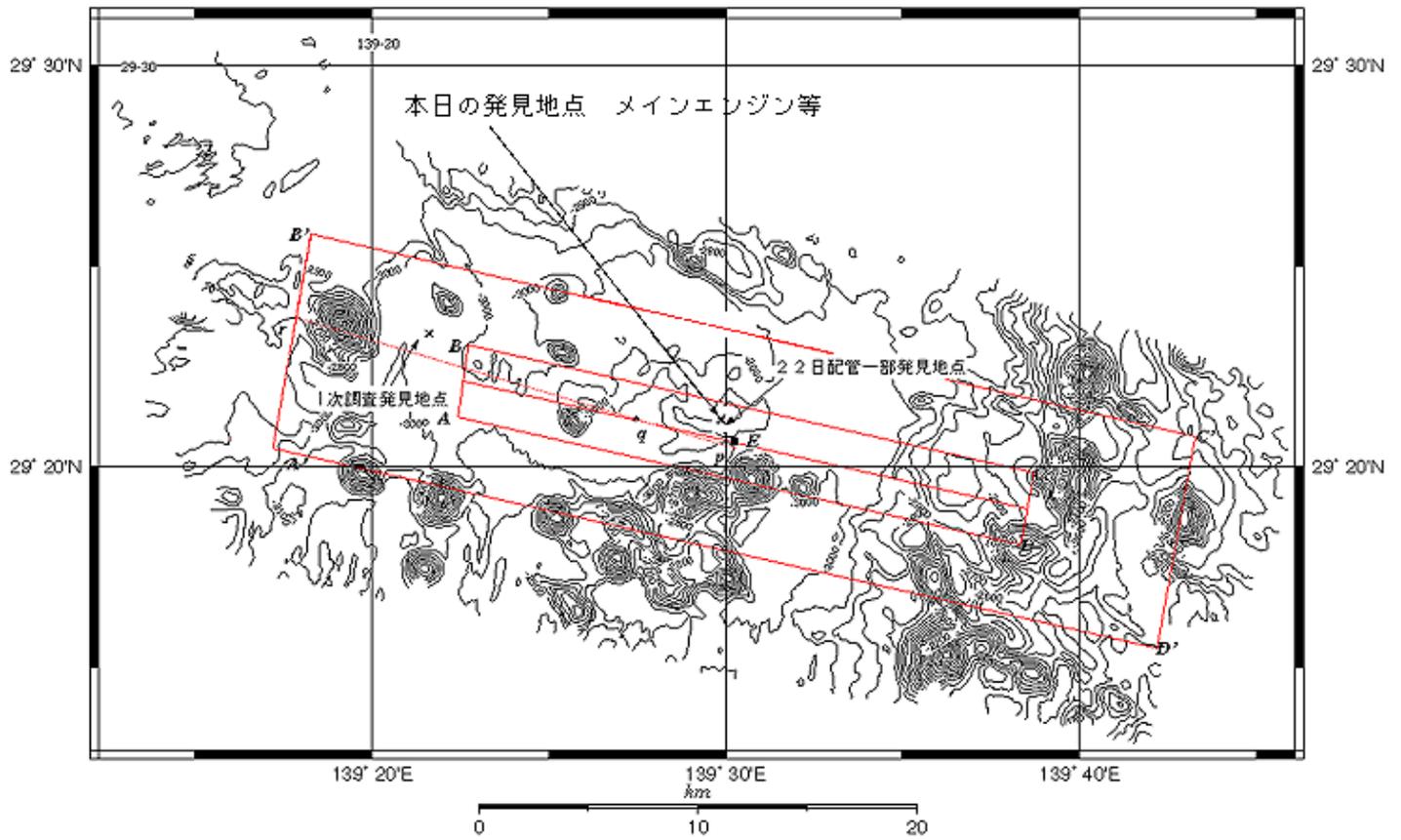


図1 2次調査海域図

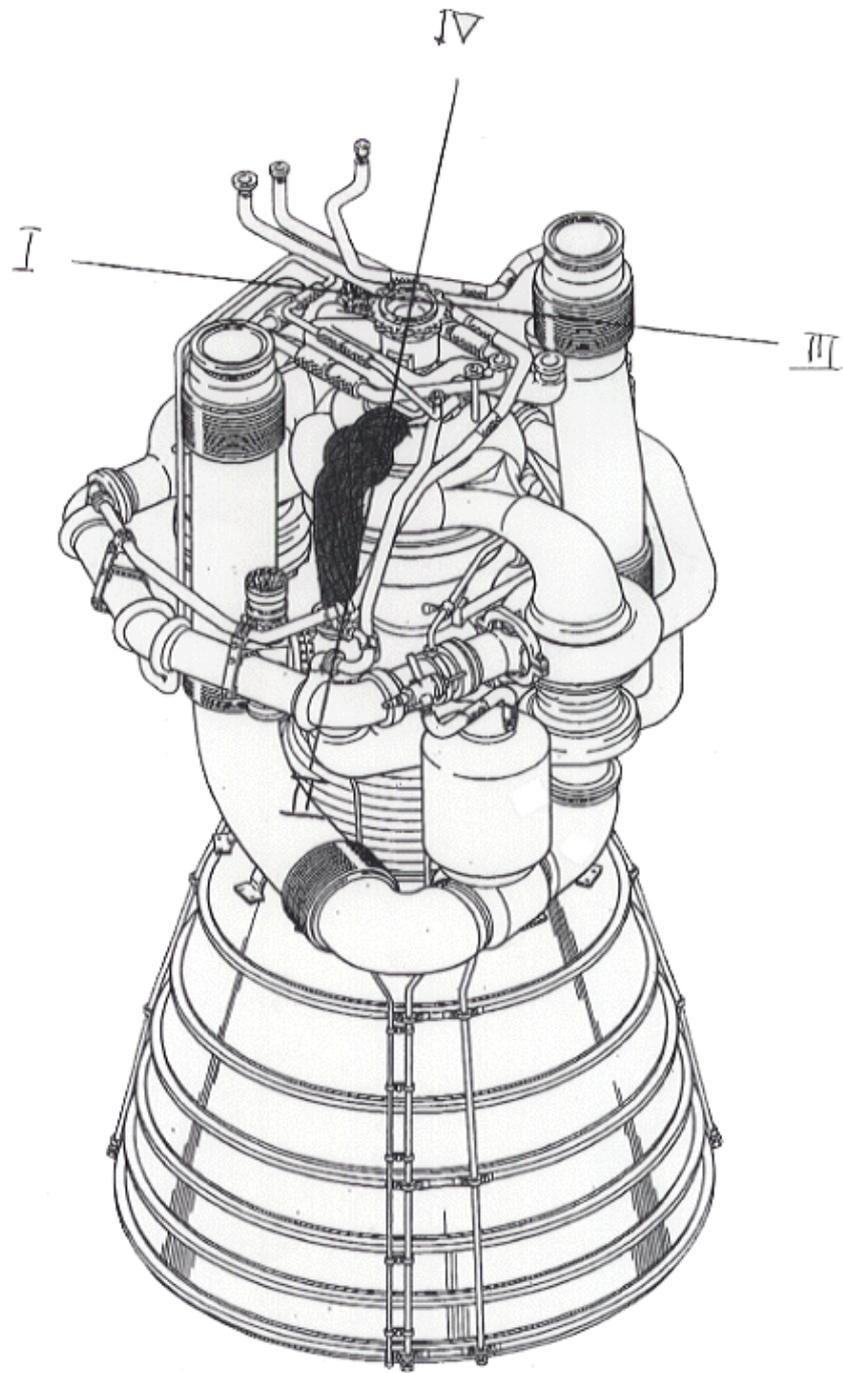


図2 エンジン外観図

(図中の黒塗り部分が液体酸素メインバルブからの主燃焼室への配管)



液体酸素メインバルブから主燃焼室への配管



細い配管



「ディープ・トウ」に装備されているTVカメラが海底直上約6mで曳航中にとらえた
第1段ロケットのメインエンジン部

発見日時：平成11年12月24日（金）、15時50分

場 所：小笠原諸島の北西約380km（北緯29度21.16分、東経139度29.78分）

水 深：2,917m